

S18a

ASCA による 2 型 Seyfert 銀河の観測

上野史郎、栗木久光、林一蔵、小山勝二（京大理宇宙線）、あすかチーム

ASCA で観測した 2 型セイファート銀河サンプルの解析結果を報告する。このサンプルは 1) [O III] λ 5007 flux の大きいもの、2) optical polarized broad lines の存在するもの、3) 以前に X 線で検出されたもの、で構成される。

ほとんど全てのソースから強い吸収を受けた X 線源を検出した。その X 線光度 (2-10keV) は 10^{42} から 10^{44} erg/s であり、1 型 Seyfert 銀河のレンジに含まれる。また吸収量の分布は $N_{\text{H}} = 10^{23.5} \text{cm}^{-2}$ にピークを示した。吸収量分布にたいする selection effects を考慮し、2 型セイファート銀河の X 線背景放射への寄与と、吸収物質の空間分布を考察する。

吸収された X 線源に加え、吸収をうけていない軟 X 線放射も検出した。他波長から予測した中心核以外からの X 線強度では、この軟 X 線成分は説明できなかった。そこで我々は軟 X 線成分は中心核からの散乱 X 線であると解釈した。Polarized broad line sources として報告されているソースからは、特に強い散乱 X 線が観測された。